

福島第一原子力発電所の状況

2016年3月3日
東京電力株式会社

< 1. 原子炉および原子炉格納容器の状況 > (3/3 11:00 時点)

号機	注水状況		原子炉压力容器 下部温度	原子炉格納容器 圧力	原子炉格納容器 水素濃度
1号機	淡水 注入中	給水系：約 2.5 m ³ /h	14.4	0.99 kPa g	A系： 0.01 vol %
		炉心スプレ系：約 2.0 m ³ /h			B系： 0.00 vol %
2号機	淡水 注入中	給水系：約 1.8 m ³ /h	19.4	4.83 kPa g	A系： 0.03 vol %
		炉心スプレ系：約 2.4 m ³ /h			B系： 0.02 vol %
3号機	淡水 注入中	給水系：約 1.8 m ³ /h	17.0	0.25 kPa g	A系： vol %
		炉心スプレ系：約 2.5 m ³ /h			B系： vol %

作業に伴いデータ欠測

・2,3号機原子炉格納容器ガス管理設備については、当該設備の信頼性向上を目的に、配管の一部に使用しているフレキシブルチューブおよび樹脂製ホースの鋼管化作業を行うこととしている。必要に応じて設備の停止となるため、停止中は特定原子力施設に係る実施計画「特定原子炉施設の保安」第1編第24条の表24-1に定める運転上の制限「原子炉格納容器ガス管理設備の放射線検出器が1チャンネル動作可能であること」を満足しない状態となることから、実施計画第1編第32条第1項(保全作業を実施する場合)を適用し、計画的に運転上の制限外に移行して作業を実施する。

3/3 9:31 3号機原子炉格納容器ガス管理システムについて、特定原子力施設に係る実施計画「特定原子炉施設の保安」第1編第32条第1項(保全作業を実施する場合)を適用し、フレキシブルチューブおよび樹脂製ホースの鋼管化作業を開始。

< 2. 使用済燃料プール(SFP)の状況 > (3/3 11:00 時点)

号機	冷却方法	冷却状況	SFP 水温度
1号機	循環冷却システム	運転中	12.5
2号機	循環冷却システム	運転中	22.9
3号機	循環冷却システム	運転中	19.6
4号機	循環冷却システム	運転中	7.9

各号機 SFP および原子炉ウエルヘビドラジンの注入を適宜実施。

< 3. 水処理設備および貯蔵設備の状況 > (3/3 11:00 時点)

設備	セシウム 吸着装置	第二セシウム 吸着装置 (サリー)	淡水化装置 (逆浸透膜)	淡水化装置 (蒸発濃縮)	多核種 除去設備 (ALPS)	増設多核種 除去設備	高性能多 核種 除去設備
運転 状況	運転中 ^{*1}	運転中 ^{*1}	水バランスを みて断続運転	水バランスを みて断続運転	ホット 試験中 ^{*2}	ホット 試験中 ^{*2}	ホット 試験中 ^{*2}

*1 フィルタの洗浄、ベッセル交換を適宜実施。 *2 高性能容器(HIC)交換等を適宜実施。

< 4. その他 >

・2014/6/2～ 陸側遮水壁工事を開始。

2016/2/9 陸側遮水壁の凍結に必要な工事が完了。

・2015/5/27～ 構内で今後使用しないフランジボルト締めタイプのRO濃縮水貯槽の解体作業を開始。

・5号機 SFP 内浄化用フィルタが燃料集合体ラック上部に移動していた事象について、推定原因は以下の通り。通常、当該フィルタを使用した水移送作業終了後に、ホースからの水漏れリスク低減およびクラッドによる線量上昇防止の目的から、床面に敷設されているホース内の水を空気に置換する作業を行っている。

今回は通常時間よりも長く空気置換が行われたことにより、SFP内に敷設されている水中ホース内、および当該

フィルタ内まで空気で置換されたため、浮力が増して当該フィルタが浮き上がり、燃料集合体ラック上部に移動したものと推定。なお、再現性確認を実施した結果、当該フィルタおよび水中ホース内の水がほぼ空気に置換された段階で浮き上がり事象が発生することを確認。
今後の対策として、水移送作業終了後のホース内空気置換の際、床面に敷設されたホースのみを空気置換できるようライン構成を追加し、当該フィルタの使用前後はフィルタの設置状況について確認を実施する。

[1号機原子炉建屋カバー解体作業]

- ・2015/5/15 6:45～5/20 13:11 建屋カバー屋根パネルからの飛散防止剤の散布作業を実施。当該作業期間中において、ダストモニタおよびモニタリングポストの値に有意な変動なし。
7/17 7:06～7/21 9:10 建屋カバー屋根パネル貫通孔からの飛散防止剤の散布作業が終了。
7/28 建屋カバー屋根パネルの取り外し作業を開始。10/5 に全ての屋根パネルの取り外しが完了。

[サブドレン他水処理施設の状況]

- ・2015/9/3 サブドレン他水処理施設運用開始。
9/17～ 地下水のくみ上げを昼間のみの間欠運転から 24 時間連続運転に切り替え。
- ・一時貯水タンク C の当社および第三者機関による分析結果[採取日 2/26]は同等の値であり、共に運用目標値を満足していることを確認したことから、3/4 に海洋へ排水予定。

[地下水バイパスの状況]

- ・地下水バイパス揚水井 No.1～12 のサンプリングを継続実施中。

[1～3号機放水路の状況]

1～3号機放水路については、1号機放水路上流側立坑および2号機放水路立坑において、セシウム 137 の濃度が上昇したことから定期的に水質調査を実施。

<最新のサンプリング実績>

- ・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

[構内側溝に敷設されている耐圧ホースからの漏えいについて]

<K排水路排水口のサンプリング実績>

- ・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

[H4, H6エリアタンク周辺観測孔(周辺排水路含む)の状況、タンクパトロール結果関連]

<H4・H6エリア周辺、福島第一構内排水路・南放水口のサンプリング実績>

- ・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

[タービン建屋東側の地下水調査/対策工事の実施状況]

<地下水観測孔・海水サンプリング実績>

- ・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

[地下貯水槽からの漏えいに関する情報および作業実績]

<地下貯水槽サンプリング実績>

- ・3/1 に採取した地下貯水槽 No.1 周辺の観測孔 A11～17 の地下水を分析した結果、前回値(2/2 採取)の全ベータ放射能が検出限界値未満(検出限界値 22Bq/L)であったのに対し、最大で 200Bq/L に上昇していることを確認。なお、当該観測孔は 3 年前に地下貯水槽からの漏えいが確認された以降、検出限界値未満だったが、全ベータ放射能の上昇が確認されたことから、漏えいの可能性も含めて調査を実施していく。
- ・3/2 に A1～19 の地下水を分析した結果、A1～10、18、19 の全ベータ放射能は 2 月に分析した前回値(検出限界値未満)に対して、上昇している箇所があることを確認。また、A11～17 の全ベータ放射能は前回値(3/1 採取)に対して、低下していることを確認。
地下貯水槽 No.1 および周辺の配管の目視点検を行った結果、漏えい等の異常がないことを確認。また、地下貯水槽観測孔 A16,17 周辺(地表面)の放射線測定を行った結果、高線量の箇所は確認されていない。今後は当面の間、地下貯水槽観測孔について監視を強化する。

以上